

令和3年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立 向陽 中学校 学校長名： 前田 成穂

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 未来を切り開くリーダーとしての資質や能力を身につけた生徒 課題を発見、探求し、主体的に判断し、行動できる資質や能力を身につけた生徒 理数の確かな学力と幅広いコミュニケーション能力を身につけた生徒
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	<ol style="list-style-type: none"> 思考力を育む授業を展開するために、教員の授業力を向上させるとともに、ICT等を活用して、家庭での学習習慣や主体的で自律的な学習習慣を形成する。 教師と生徒の信頼関係をより一層密にして規範意識や規則正しい生活習慣を育成することで適切な判断力を育成するとともに教育相談体制を充実させる。 規律ある中にも温かな学級経営に取り組むとともに、学校行事を充実させ、リーダーを育成し、学び合いを中心とした言語活動を充実する。 中高連携の一層の推進のため、中高教員間で指導方法等について相互理解を深めるとともに、中高連携の課題を明らかにしその解決に取り組む。

中期的な目標	<ol style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学習と思考力を鍛える授業による高い学力の育成 学校行事や体験活動を充実させ、豊かな人間性と逞しい心身を育成 理数科目についての事業の充実及び体験学習の充実
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	<ol style="list-style-type: none"> ホームページへの掲載 P T A役員会等での説明 学校評議会での説明・協議

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					令和3年度 評 価 (3月22日 現在)		
重 点 目 標					評 価 項 目 の 達 成 状 況		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策	
重点目標 1	生徒の授業への参加、取り組み姿勢は良好であり、各テスト結果も数値的な基準を概ね超えているが、家庭学習習慣の定着や学ぶ意義や目標に対する意欲・関心にやや欠ける点も見受けられる。指導方法のさらなる改善等が求められる。	教員が授業研究や教材研究等を積極的にを行い、生徒の主体的な学習を促す指導が十分に行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> 思考力や表現力等を育む授業研究を推進するため年2回実施 生徒一人ひとりの学力や習熟の程度に応じた指導形態や指導方法の工夫・改善 ICTを活用した思考力向上を目標とした指導展開 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員による指導案検討会の年3回以上の実施 学校評価の「教材や教える方の工夫」等関連項目40P以上 授業や長期休業におけるGIGAPCの充分な活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> 指導案検討会について、4回の検討会を実施でき、指導主事にも検討頂いたことは有意義であった。 学校評価で40Pを越える項目の多くを目標達成できた。 GIGAPCは、日常的に活用できている。また、授業をオンライン配信し、欠席生徒には大変有効であった。 	
	校則の遵守や挨拶、掃除等、日常生活の基本的なことは定着しているが、携帯電話等の使用や登下校中のマナー等について、思春期の悩みを抱え込んでしまうケースもあり、より対応を充実させる必要がある。	教員と生徒の信頼関係の構築と、生活習慣や適切な判断力の育成に関する取組が行われ生徒が悩みを相談できる体制が整えられているか。	<ul style="list-style-type: none"> 生活記録や声かけによる生徒情報の収集と情報交換 挨拶、掃除、身だしなみ等の徹底、携帯電話等の使用 SC、養護教諭との密なる連携、教育相談部会の充実による早期の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の「教師との相談」項目40P以上 携帯電話等の使用状況調査及び情報モラル講座の 教育相談部会の年6回以上の開催 	B	<ul style="list-style-type: none"> 相談ののってくれる先生が多い項目で、36Pであった。 情報モラル講座については、学級活動で取り上げた。月に1度の割合で実施し、10回開催できた。 	
3	健全な人権意識を涵養し、自己有用感や達成感が持てるよう、集団づくりを核とした取組が必要である。	日頃から学級経営の充実を図り、教員と生徒の信頼関係及び生徒相互の望ましい人間関係を育てる中で、リーダーを育成できているか。	<ul style="list-style-type: none"> 集団として協力し、達成感を味わえる学校・学年行事の充実とリーダーの育成 誰もが活躍できる場の設定とお互いを認め合う心の醸成 レジリエンスに基づく授業を行い、自尊感情を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の「行事の充実」項目45P以上 学校評価の「生徒の自主性の尊重」項目40P以上 各学年において、2回以上の授業を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 不登校予防の側面からも、集団づくりについて、具体的にいかに取り組むかについて、明確化する。 今年度初めてレジリエンスに基づく授業を行い、効果があった。来年度以降も、より充実した授業を目指して取り組む。 	
4	施設等学校運営面では中高の連携は円滑に進められるようになったが、教科指導の内容・方法等の面で6年間を見通した共通理解による取組が求められる。	6年間を見通した中高一貫教育課程が全職員のもとで展開され、本校全体の活性化に繋がっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 中高連携推進委員会を中心に共通認識を図るための体制面での一層の工夫改善 各教科指導における6年間を見通した中高間の相互理解の一層の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 中高連携推進委員会の年3回開催、教育内容・方法等の点検と改善 中高間での指導方法等の理解を推進し、6年間のプログラムを組む 	B	<ul style="list-style-type: none"> 来年度19年目を迎えることもあり、連携を密にとれているため、委員会は解消する。 STEAM教育の充実を目指して、協議を継続する。 	

学 校 関 係 者 評 価
令和3年12月18日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会において、学校評価シートをもとに協議した。 生徒の探究活動に、高い評価をいただいた。また、何事にも一生懸命に取り組む生徒が多く、学校の雰囲気も素晴らしい、との意見もいただいた。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部からの評価は、高いものであったが、これに甘んじることなく、生徒の能力や技術を高められるよう、学習活動や部活